

い。だが然し現実には於ける全従業員の日常利益擁護のため、闘争が本部の積極的指導下に行動化し、発展せしめ、吾々大衆の参加支部は行動を以て具體的に闘争に参加し得ることを、諸君の中央委員会に宣言して、おくれ、当面本部が闘争しつつある改造ボギー車問題は当然に新たな要求を提起し、全従業員の問題として闘ふことに同意する。

然し吾々支部代表者は本部の指導が交渉から大衆行動へ発展せしめる具体性を見極めた瞬間から行動を以て一致せしめ、あらゆる事を確言しておく。

終りに諸君の中央委員会に出席せざる理由は冒頭の理由と現在進行しつつある東交統一懇談会が成功するまでは大会当時の態度を持続すること及び心ひかりである。

故に大会不参加支部は正式に中央委員としての出席を遺憾し代表を以てその有する不参加支部の意思を諸君に傳へ、功に日常闘争の活潑なる指導を望むものである。

七月七日

不参加全支部

然則一派の文以上、の如き意向に対し、本部派は、昭和八年度定期大会を繰上げる意味に於ての臨時大会開催が、統一化の爲め必要條件であると云ふは、敢て大会を持つことに反対するものではない。更にその爲、六月十三日の臨時大会が大局から見て失敗であったことに対する聲明書発表が要求に對しても、應ずることを辞するものではない。然し開催すべき大会は現本部に依つて行ふことと條件とするものであると、飽く迄統一合流に向つて邁進の爲には多少の譲歩は甘受するまでの程度を示すに至るべきである。

今後如何に両派の交渉が進展するものなるかは予断し難いところであるが、大体に於て来るべき年度大会を機として合同すべく、其の固現在までの行懸りを如何に巧妙に解消するかを就いて統一協談会、小委員会を中心に折衝を繼續するがのと思惟せられる。

最後に現在本電従業員内部に流れてゐる思想傾向の種々相に就て簡単に述べる。

先づ左翼運動を觀るに、昭和六年九月滿洲事變の勃發以來、我が國社会運動界を風靡した日本主義或は國家社会主義思想運動の歎響と、徹底的取締り檢舉等の爲、昭和二、三年の頃から電内部に侵